

子育て世代支援集合住宅整備及び富河地区ランプエリア構想(案)に対する 意見提出書

提出する場合は、必ず住所、氏名、電話番号をご記入下さい。【令和7年7月30日(水)～8月22日(金)必着】

氏 名 (団体等の場合は名称及び代表者名)	
住 所 (団体等の場合は所在地)	
電話番号	
意見提出方法 (いずれか)	▽郵送 〒409-2192 南部町福士28505番地2 南部町役場 企画課 宛 ▽メール kikaku1@town.nanbu.yamanashi.jp ▽FAX 0556-66-2190 ▽持参 南部町役場 企画課 (本庁舎2階)

※ 提出いただいた意見は、町ホームページにおいて公表します。(個別の回答は致しません)

※ ご意見以外の項目(氏名・住所・電話番号)は公表しません。

※ 以下、ご意見のある項目ごとに記入してください。ご意見のある項目のみの記入で差支えありません。

子育て世代支援集合住宅整備について

意見欄

南部町ホームページに掲載されている、過去の説明会資料や議事録を拝見させて頂きましたが、なぜ南部町がここまで衰退してしまったのかという視点に基づいた議論が全くされておらずがっかりしました。

20戸弱の子育て支援総合住宅のような箱もので一時的に町民の目をそらすことはできるかもしれませんが、人口減少を食い止めるためには全く焼け石に水で効果は期待できず税金の無駄遣いです。

一番重要なことは、南部町という町に住んでみたくなるような施策で、それらは過去数期にわたる町政で全くとられてきておらず、為政者の責任は重大です。

500戸にもものぼる空き家や荒れ果てた田畑、山林、人気のない商店街を見たら若者は全く魅力を感じず、町から離れていくのは至極当然のことです。

まず、南部町の魅力は何か(雄大な自然、細やかな人情、歌舞伎等の伝統芸能、高速道路へのアクセスの利便性、茶や竹の子等の農産物等があげられるでしょう)を把握し、それらに基づいて南部町の魅力を構築し全国に発信し、移住希望者(企業も含む)を積極的に受け入れるのがまずやるべきことです。そうすれば町もおおのずと活性化し、若者はもとよりお年寄りにも魅力的な町になります。全国の市町村の活動を見ればいくらでもそんな例はあります。

以上、中途半端な子育て支援住宅の建設には反対で、その予算をまず町の魅力発信、移住者の促進に活用することを提案します。

子育て世代支援集合住宅整備場所について

意見欄

若者や県外からの移住者を増やすためには、まず町に500戸もある空き家や耕作放棄地の有効活用を考えるのが先決です。リホーム会社と町がタッグを組んで空き家をリノベーションし、安価で供給できるようにすれば移住希望者はいくらでもあります。小規模な耕作地をつけてあげて、近隣の農家が支援してくれるようなシステムにすれば、住民間の交流にも役立ちます。相続手続きの困難さを云々する役場の職員がいるようですが、仕事をしたくないための言い訳にすぎません。集合住宅のような限られた場所で近隣住民との交流が遮断された箱モノを作るのではなく、町全体に若者あるいは移住者を分散させた方が、農村地の荒廃を防ぐのに有効です。

為政者はまず、綺麗ごとを言う前に、町の本通りから外れ、一人暮らしの老人ばかりが住む地域の現状を自分の目と足で確かめ、如何に悲惨な状況かまず把握することから始めて下さい。

南部町富河地区ランプエリア構想(案)について

意見欄

まず、ランプエリアとは説明にもあるように飛行機が一時的に駐機する場所のことです。定住促進のための集合住宅と意味するところが違うのでは? へんてこなカタカナ語を使ってハイカラぶるのは止めて、誰にでもわかる日本語を使ってください。

この構想は全くの中途半端と言わざるを得ません。こんな狭い場所に形ばかりのちびっこスペースやバスケットコートを設ける理由が理解しかねます。どうしても建てなければいけないというのなら、集合住宅を高層にし、戸数を増やし、空いた土地には木を植え、誰もが利用できる公園のスペースを広くとった方が、防災上もはるかに役に立ちます。子供はこんな無味乾燥な人工の施設で遊ばせるより、近くの野原や川で遊ばせる方がよほど情操教育には役立ちます。とにかく発想が陳腐すぎます。